

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 1 日現在

機関番号：14403  
 研究種目：基盤研究(C)  
 研究期間：2010～2012  
 課題番号：22531021  
 研究課題名（和文） 幼少中校種間連携国語科カリキュラム開発のための文学作品の読みの学習指導の研究  
 研究課題名（英文） A study of literature instruction for relational curriculum between kindergarten, elementary school and junior high school  
 研究代表者  
 住田 勝 (SUMIDA MASARU)  
 大阪教育大学・教育学部・准教授  
 研究者番号：40278594

研究成果の概要（和文）：この研究は、幼稚園、小学校、中学校それぞれの校種間の緊密な連携を図り、一貫性のある、かつそれぞれの学習者の発達段階に応じた系統的な国語科におけるわけても文学作品の読みの学習指導を構築することを目的とした。そのための基礎的な作業として、我々は、幼稚園や小学校や中学校で読みの素材として提供されている、絵本、国語教科書等を分析した。そして、我々は、物語テキストを読むための分析の観点を抽出し、その系統的発達についての仮説を構築した。

研究成果の概要（英文）：This research through close collaboration among kindergarten, elementary school, junior high school and consistent and aimed at building a particular reading of literary works instruction. We analyzed as a fundamental work provided reading material as in kindergarten, elementary and junior high school children's books, textbooks, etc. We extract the perspective analysis of narrative texts to read and build a hypothesis about the systematic development.

### 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
2012年度	700,000	210,000	910,000
年度			
年度			
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：教科教育学

科研費の分科・細目：国語科教育

キーワード：国語科教育・小中連携教育・幼児教育・文学教育・系統性

#### 1. 研究開始当初の背景

小中連携を中心に、校種間連携の必要性や実質的な連携を可能にする基礎研究の必要性が、実践現場からも教育行政サイドからも切実な声としてあがり続けているにもかかわらず、教科教育わけても本研究が取り組む国語科教育の領域では、全くの手つかずの状

況と言ってよかった。その原因としては、そもそも国語科教育における教科内容の系統性が十分に把握されていないという信じがたい現状。したがって、当然小中でそうした「教える中身」を共有しようという取り組みの前提が理論的に存在し得ていない状況にあると言ってよい。国語科教育によって耕さ

れるべき、言語能力の構造、系統に関する具体的で網羅的な基礎研究の充実が求められていると言ってよい。

## 2. 研究の目的

幼稚園、小学校、中学校それぞれの校種間の緊密な連携に基づく、一貫性のある、かつそれぞれの学習者の発達段階に応じた「系統的な文学作品の読みの学習指導」を構築するための基礎的な作業を行うために、本研究は次のような取り組みを行った。

## 3. 研究の方法

○現行国語教科書における文学教材の分析・考察

研究期間中、小学校国語教科書が改訂され、次いで中学校の教科書も改訂され、多くの国語科学習指導において用いられる国語教材のシステムが、現行学習指導要領にあわせてリニューアルされた。そこで、小学校、中学校の検定国語教科書（光村図書、東京書籍、教育出版、学校図書、三省堂）を分析対象に、国語教科書の系統性を、具体的な教材を比較分析しなから明らかにする取り組みを行った。

○文学教材の読みの学習指導の具体をとらえるための授業観察

そして、こうした観点が、実際の国語の学習指導の中で、どのように子どもたちに提示され、学習指導の対象となっているのかを確かめるための実態調査を設計する準備を進めた。具体的には、大阪府東大阪市内の公立小学校において、文学教材を取り扱った授業を観察し、具体的な学習場面から、上記の読みの観点がどのように機能しているかを検討した。

## 4. 研究成果

○物語テキストを読む力の構成要素

その結果、次のような物語の構成要素が、文学的読解力の徴標として有効なものではないかという仮説を得ることができた。

人物	設定
	視点
	中心人物
	対人物
	脇役
場面	反復対比
	首尾
	伏線
語り	一人称
	回想

表現	比喻
	象徴
	文末
	モタリティ
	会話
	描写

○物語テキストの特質と学習者の関わりの変容から見た系統性

こうした物語の構成要素の具体的な国語教材の中ではたらきを考察し、また、そうした物語テキストと出会い、読解していく学習者の反応を想定しながら検討を加えることを通して、小学校6年間の物語教材を貫く「系統性」の原理の一つとして、物語世界との関わり方のシフトがあげられることが明らかになった。

○入門期の物語の読み：自己中心的「参加」  
つまり、幼児期から学童期への移行期間としての1年生中期ぐらいまでの物語教材の特徴は、読者が物語世界への主体的で積極的な「参加」を、自己中心的に行っていくことが目指されている。

○低学年の物語の読み：「参加」から「同化」へ

そこから低学年にかけて、今度は物語の登場人物や状況への「寄り添い」＝「同化」が目指されるように教材が変容する。

○中学年の物語の読み：「同化」と「異化」の自律的循環運動

中学年では、物語の構造への着眼がキーとなる教材増え、物語の作られ方を自覚する力への期待を反映した教材編成となる。いわば、構造分析を伴う「異化」をくぐることによって、より深い「同化」へと向かう読みの力の育成が目指されている。

○高学年の物語の読み：「書き手」との対話

高学年は、構造分析によって明らかになった物語の作られ方の向こう側に、そうした仕組みを作り込んだ主体としての書き手(作者)の存在を「発見」し、対話する力が目指されている。物語世界への同化、構造分析、書き手との対話。こうした算用の合い関わる読みの力を基礎として、中学校では、より高度で複雑なテーマや構造を備えた物語への挑戦をしていくことで、その力の洗練がはかられていると言えるのではないか。

今期、具体的な実施計画までは策定することはできなかったが、今後実際の学習指導場面における学習者の反応調査や、国語教師の意識調査を通して、幼少中を貫く文学的読解力の系統を明らかにしていきたい。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 15 件)

1. 住田勝 読む力の構造とその発達 : 「ごんぎつね」の授業研究を手がかりとして 大阪教育大学国語教育講座・日本アジア言語文化講座 学大国文 査読なし 55号 pp.17-37, 2012年3月
2. 住田勝 文学作品の読みの学習指導の研究 : 〈遊び〉と〈物語〉の関連を中心として 広島大学大学院教育学研究科国語文化教育学講座 論叢国語教育学 6号(復刊1) 査読無し pp.67-75, 2010年9月
3. 住田勝 「白いぼうし」の授業実践史 文学の授業作りハンドブック : 授業実践史をふまえて第2巻小学校・中学年編 詩編(浜本純逸監修、松崎正治編) 査読無し pp.92-111 溪水社 2010年5月
4. 寺田守 読書とコミュニケーション 教師コミュニケーション力(森山卓郎編著) 査読無し pp.46-47 2012年
5. 寺田守 特別支援教育と国語の授業づくり 特別支援教育ハンドブック(相澤雅文、牛山道雄他5名編集) 査読無し クリエイツかもがわ pp.74-75, 2012年
6. 寺田守 「夏を見上げて。」(あさのあつこ)を小集団で読む 三省堂国語教育ことばの学び 査読無し 26号 pp.22-23 2012年
7. 寺田守 児童にとっての読書の意味 児童サービス論(難波博孝、山元隆春、宮本浩治編著) 査読無し 学芸図書 pp.25-51 2012年
8. 寺田守 読むことの授業における類似性に基づいた推論の検討:小学校低学年の授業の考察を中心に 京都教育大学国文学会誌 査読無し 36号 pp.25-38 2010年7月
9. 寺田守 「きつねのおきやくさま」の授業実践史 文学の授業づくりハンドブック第3巻小学校高学年編(浜本純逸監修、藤原顕編) 査読無し pp.126-143 溪水社, 2010年5月
10. 森美智代 国語科教育国語科の「話し合い」活動を支える理論の検討:ハーバーマスのコミュニケーション論を中心として 査読あり 第72集 pp.17-24

2012年10月

11. 森美智代 <実践=教育思想>の構築 : 「話すこと・聞くこと」教育の現象学 査読無し 2011年7月
12. 森美智代・磯貝淳一 高等教育における「言論の場」教育の探究 鈴峯女子短期大学人文社会科学研究集報 査読なし 第57集 pp.31-49 2010年
13. 光本弥生・森美智代・渡邊眞衣子 人格的自立と専門性の養成を統一するカリキュラムのための一考察 123(計3編) 鈴峯女子短期大学人文社会科学研究集報 査読なし 第57集 pp.31-49 2010年
14. 森美智代 「お手紙」の授業実践史 文学の授業づくりハンドブック第1巻小学校低学年編(浜本純逸監修、難波博孝編) 査読無し pp.85-100 2010年6月
15. 渡辺貴裕 ドラマによる物語体験を通しての学習への国語教育学的考察 : イギリスのドラマ教育の理論と実践を手がかりに 国語科教育 査読あり 70号 pp.100-107 2011年9月

[学会発表] (計3件)

1. 寺田守, 話者の判断や評価の表れる言葉に着目する文学教材の解釈 —「走れメロス」(太宰治)の一文を読む—, 第123回全国大学国語教育学会富山大会, 2012年10月27日, 富山大学(富山県)
2. 寺田守, 解釈を巡って対話する文学の授業, 京都国語教育アセンブリ, 2012年8月17日, 京都JA会館(京都府)
3. 森美智代, 「物語体験」に関する理論的考察—ハンナ・アーレントの「今パッション」を中心に—, 第123回全国大学国語教育学会, 2012年10月27日, 富山大学(富山県)

[図書] (計2件)

1. 文学教材の解釈 2012 寺田守編著 京都教育大学国語教育研究会 査読無し 全220頁 2012年
2. 読むという行為を推進する力 寺田守 査読無し 溪水社 2012年2月

[産業財産権]

○出願状況(計 件)

名称 :  
発明者 :  
権利者 :  
種類 :  
番号 :  
出願年月日 :  
国内外の別 :

○取得状況（計 件）

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

住田勝（SUMIDA MASARU）  
大阪教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：40278594

(2) 研究分担者

森美智代（MORI MICHIO）  
福山市立大学・教育学部・准教授  
研究者番号：00309779

寺田守（TERADA MAMORU）  
京都教育大学・教育学部・准教授  
研究者番号：00381020

渡辺貴裕（WATANABE TAKAHIRO）  
帝塚山大学・教育学部・准教授  
研究者番号：50410444